



セブ・カモテス島トラリアスロン

2013. 02. 08~13



自分にとって4月に行われる宮古島トライアスロン大会に出場出来なくなってからは12月のIM西オーストラリアがメインの大会となり一年はこれを軸に進んでゆく。したがって寒いこの時期はどうしてもOFFとなってしまう。しかし何とかモチベーションが低くなるこの時期の体力を維持すべく数年前から山歩きや海外のバイク旅をしている。今回はミドルのローカルなお遊びトライアスロンとの事で参加する事とした。

耳にするが行った事のない観光地セブ。隣接するカモテス島での大会、暖かな海で泳げればそれだけで納得できるだろう。



二日目朝、セブ島からバスごとフェリーに乗り込み約2時間30分カモテス島に着いた





船は結構乗客が多くデッキで風を受けてゆっくりな時間を過ごした。
トライアスロン雑誌ルミナのプロカメラマンとスポーツライターが
同行した。来月号あたりに特集が組まれるのだろうか。



何処から見ても「南国の海辺」の風景だ。

今は潮が引いているのだろうか

遠浅の砂浜が伸びている。

明日はここがスイム会場と聞くがそれらしい準備、雰囲気は

全く感じられない。

長閑だ！





三日目、試合当日の朝6:30、ホテルから見えたスイム会場は海面から岩がゴロゴロ飛び出た光景だった。

8:00スタートとなっているが。。。はたして



スタート時刻に合わせてそれぞれに準備したが、いっこうに開始の気配がない。8:40頃ようやく周回を目印となるフイ（小舟）が配置され砂浜に書いた絵で如何に泳ぐかの説明がなされた。8:56スタート。

A group of about seven triathletes are wading in the ocean. They are wearing wetsuits and swim caps. The water is blue and calm. The sky is clear and blue. The athletes are standing in a line, facing away from the camera, and appear to be preparing for a swim. There are some buoys visible in the water.

50m程浅瀬を歩き、沖にある2個のフイを3周回、「1.8km」と称するコースである。

一部分で海流にあおられたが、総じて穏やかでのどかなスイムだった。

ただこのコースはGPSのテーター、西内フコの感想からして少なくみても3kmは

あるとの結論だった。

2013. 2. 10 8:56



バイクはカモテス島を縦断する行って来いのコース。確かに車は殆んど見る事はないが、民家のある所には子供たちが多く気が抜けない。そして何よりも路面が凄い。コンクリート舗装ではあるが至る所に穴があったり、未舗装？と思うような傷み具合で、とても楽しく走れるには程遠い。

自分は帰り道、コースアウトに気が付くも地形的に短絡コースと思われたのでそのまま進んだ。結果は悲惨なものだった。初めは直線の立派な道だったがやがて民家もなくなりアップダウンの激しい山道となってしまった。

そして何とかもとに戻ったものの、もはや気力も失せて試合終了！（同じ事をやった人が他にもいた）

2013. 2. 10. 11:48

四日目、朝から雨だった。午後出発の時間には止んだもののハフニングは待っていた。

バスが港に着いたらフェリーは波が高いので島の反対側に着くとの事だった。急きょそちらに向かう。

何ともそのまんまのフェリー船着き場だった。

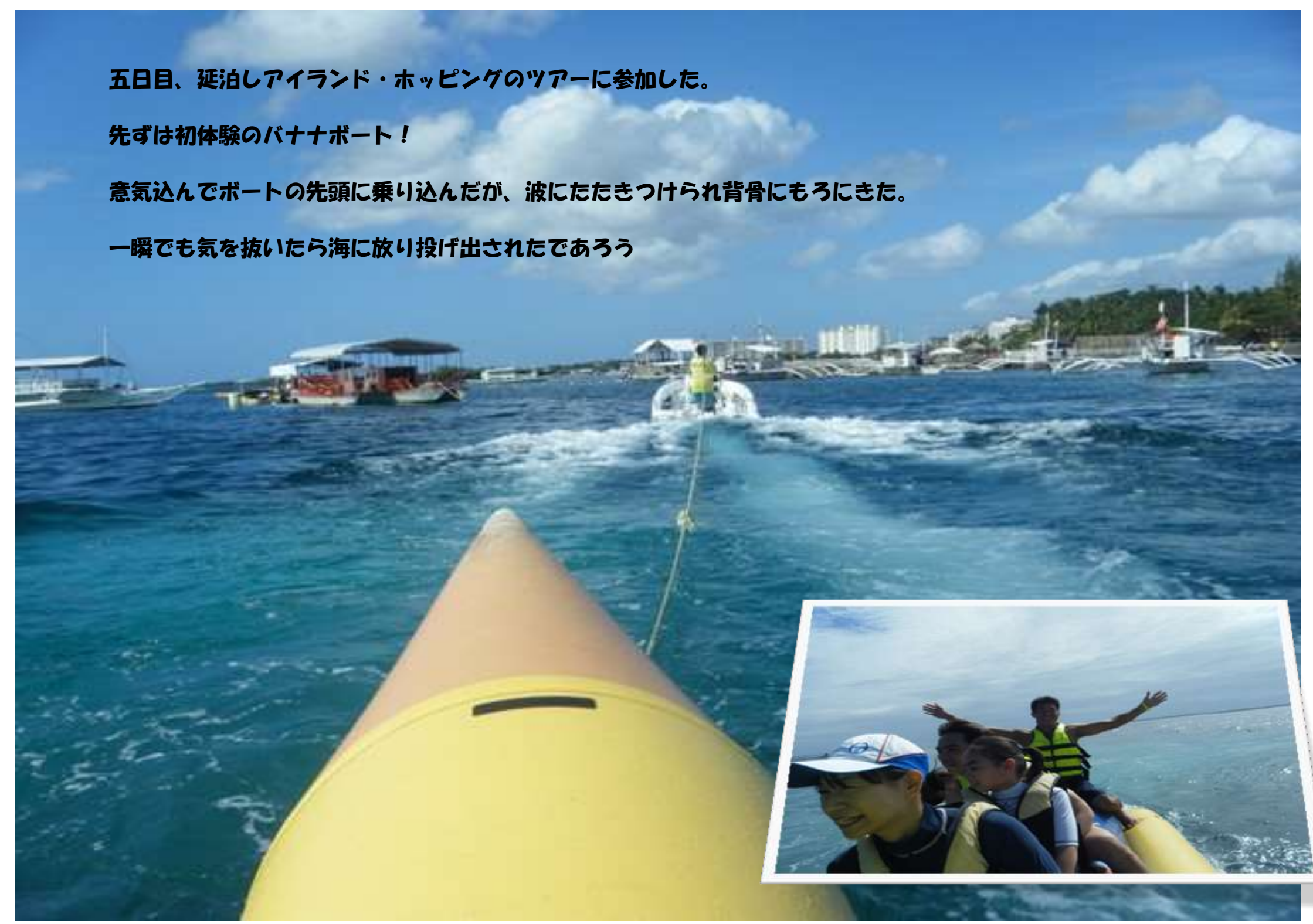



五日目、延泊しアイランド・ホッピングのツアーに参加した。

まずは初体験のバナナボート！

意気込んでボートの先頭に乗ったが、波にたたきつけられ背骨にもろにきた。

一瞬でも気を抜いたら海に投げ出されたであろう






アウトリガーの付いた小舟で約 40 分、地図
で探せない程の小さな島に着いた。

島に上陸するかと思いきや、船上でライフジ
ャケットとシュノーケルを渡され海中散歩
となった。

約 5mの海底にはサンゴがそして沢山の小
魚が遊んでくれた。

The background is a blurry underwater scene with a dark, elongated object in the foreground. The text is overlaid on the right side of the image.

島では木陰のベンチで食べたシーフード他のバーベキュー屋食が美味だった。何ともビールが飲みたい雰囲気だったが、以後のシュノーケルが禁止になるのでグッと堪えた。

その甲斐あってか、第二回目のシュノーケルポイントではこれまでにない体験をした。

魚が群れをなし泳ぐ中に自分がいる世界だった。ただ残念な事に水中カメラが不調になり以後回復しなかった。(SDカードは無事だった)



今回のセフ・カモテス島の旅はトライアスロンと言う観光で、南国の海原を独り占めして泳いだ（試合では最後尾だった）だけで満足だった。試合翌日は小雨だったが揺れ動く海底の海草を見ながら時に西内フロ、小野田コー千のアドバイスを受け穏やかで心地よい泳ぎが出来た。

そして延泊ではシュノーケルでの海中散歩が記憶に残る。

セフの食事は安く（1/3程度）マッサージは1/10程度と安さに驚いた。

街には島民の足となる「ジーフニー」と言う軽トラを改造した座席、幌付タクシーがあふれており、活気を感じる。

セフは何とも肩肘の凝らない街に思えた。

終わり